

2018 年度 事業報告 (案)

施設名 玉堤つどいの家

1 利用状況

事業種別： 生活介護 定員 13 人 利用者数 14 人

(1) 障害支援区分

区分 6	12 人	区分 5	2 人	区分 4	0 人
区分 3 以下	0 人	計		14 人	

(2) 障害の程度

		身体障害者手帳				計
		1 級	2 級	3~7 級	なし	
愛 の 手 帳	1 度					0 人
	2 度	4 人				4 人
	3~4 度					0 人
	なし	9 人	1 人			10 人
計		13 人	1 人	0 人	0 人	14 人

(3) 年齢、性別

10 代以下	0 人	40 代	4 人
20 代	3 人	50 代	3 人
30 代	4 人	60 代以上	0 人
計		14 人	

男性	8 人
女性	6 人
計	14 人

2 事業実施状況

(1) 活動・支援の内容

概要

<b>身体障害者生活介護事業</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・区内在住 18 歳以上の重度の身体障害のある方を対象とし日中の活動や外出、宿泊旅行等の各種プログラムを提供する。</li> <li>・年間行事</li> </ul>	
4 月 春のバス外出、さくらまつり、男性健診	10 月 秋のバス外出、保護者会、宿泊訓練旅行
5 月 日帰りレク、女性健診	11 月 防災訓練
6 月 防災訓練、利用者実習生受入、アート展	12 月 X'mas 会、感染症対策訓練、忘年会、ボラ交流会
7 月 夏ボラ受入、保護者会	1 月 新年会、初詣
8 月 介護講習会、夏ボラ受け入れ	2 月 イベント食、東/玉交流会、来年度の話合い
9 月 夏ボラ受け入れ	3 月 保護者会、うどん打ち、来年度の話合い、納会
*全体調理→11~3 月除く毎月、誕生日会→4・6・3 月除く毎月、介護体験生受け入れ→6・9・11 月のみ	

### \*1日の基本プログラム

9:30	利用者来所 (バイタルチェック、水分補給、トイレ)
10:15	朝の会
10:30	日中活動 (11時水分補給)
11:30	トイレ・口腔体操・食事準備
12:00	昼食・歯磨き・トイレ
13:00	昼休み
14:00	選択活動
14:30	帰りの会・水分補給・トイレ・帰宅準備
15:30	利用者バス乗車 (1号・2号) / 帰宅

### \* 日中活動内容

- ・染め 動物の図柄や物体の型抜きを使ってデザインし、布を染めてゆく。染めた布を使って、コースターやランチョンマット、巾着袋に商品化。
- ・マーブリング 水を張ったパレットに数種類の染料を落とし、そこに用紙を浮かせると幾何学的な模様がうつる。模様の付いた紙を裁断し、ポチ袋に商品化。
- ・音楽療法 音楽療法士による療法(月1回)とカラオケ(月1回)を実施。
- ・COM コミュニケーション活動として各自、意思の疎通をはかる練習。
- ・委員会 広報では、機関誌の企画会議や印刷作業、折りや封入作業を分担し毎月発行。美化では、施設内の整理・清掃活動。消耗品などの在庫チェック。
- ・フリー 事前に各自の希望を挙げて、パソコン、散歩、TV視聴、担当メニュー考案などを実施。
- ・選択活動 主に休憩をされる方が多いが、他に座談会、音楽鑑賞、ゲーム(トランプ等)なども実施。

## (2) 地域交流

セントメリー学園の生徒の受け入れを年2回行い、生徒たちの出しものを鑑賞したり、会話をしたりと定期的な交流を行っている。

さくらまつり・ふれあいフェスタ等区内の販売会へ出店を行った際、販売を手伝ったり、模擬店で食事を味わったりと地域イベントへの参加を楽しんでいる利用者もみられた。また、玉川支援ネット利用者交流会にも数名の利用者が参加しており、他事業所との交流を行った。

## (3) 家族、関係機関との連携等

個別支援計画書の確認、年に3回の保護者会、新年会・クリスマス会等への参加を通じて、保護者との情報交換・信頼関係の構築を図った。相談支援関連のモニタリングにケース担当も出席し、情報共有することにより関係機関との支援の連携を図った。また、利用者が短期入所・緊急入所・自立体験等を利用する場合の当該施設やグループホーム等との情報共有・連携もより入念に行った。

## (4) ボランティアや実習生の受け入れ

- ・夏のボランティア体験、玉川聖学院、田園調布学園、郁文館高校等からのボランティア体験の受け入れを行い、普段あまり接する機会の少ない中高生たちとスポーツ観戦やアイドルの話題で会話を楽しんでいた。
- ・玉堤小車椅子体験会では、地域の子供たちを中心に障害者福祉の理解を深めてもらう良い機会となっている。
- ・光明学園からの見学・実習の受け入れ、玉堤支え合いの会のメンバーの方々と外出や近隣の方の個別受け入れを行い、地域の方々との幅広いつながりを持つことができた。

## (5) 危機管理

防災訓練(建物内全体、施設単独)、避難訓練、感染症予防訓練(ノロ・インフル発症時の動き、利用者・職員の予防接種、各種衛生用品補充強化)を実施して、救急・緊急時に対応できるよう備えた。各利用者の介助方法の確認(障害からくる身体機能の変化のチェック、移乗方法等)をし、職員間での統一した介助方法を行うように心がけた。また、ここ数年インフルエンザの感染による施設閉鎖が起きていたため、感染症対策として空気清浄機のレンタルや置き型の感染予防薬剤の導入等、より一層の対策に力を入れた。

## (6) 職員研修の実施

法人職員全体研修として、3回にわたってシリーズで障害者のライフサイクルプログラムを学ぶ研修が実施された。また、所内では介護講習や感染症対応の講習会を実施し、利用者の更なる安全のために業務のスキルアップにつなげた。

## (7) その他(苦情・事故等)

- ・苦情⇒1件(保護者より介助方法に関する苦情があり、ケースカンファレンスを実施、区の保健福祉課や相談支援事業所、ヘルパー事業所等関係者も交えて情報共有と検討を行った)。
- ・事故⇒0件、ヒヤリハット⇒13件
- ・平成30年度福祉サービス第三者評価を受審(12～3月)

## 3 重点課題と取り組み・成果

H30年度は以下の3つを重点課題として挙げ、取り組んだ。

### ① 利用者の高齢化

- 利用者本人と共に家族(ひとり親)の高齢化による体調不良で、よりチーム支援の必要性が高まっている状況を受け、相談支援をはじめとする関係機関と連携を密にとり、きめ細かい支援を実施した。中には、なかまっちの自立体験の一般利用を開始し、自立生活を目指すため介助者のシフト時間のチェックや金銭管理をするためのアドバイスをする等、より具体的な生活がイメージできるような日々の支援を行った。

### ② 日中活動の充実

- 『バス外出』では、利用者から行先の希望を聞き、新しく建設された東京リハビリテーションセンター世田谷や武蔵小杉のベッドタウン、鉄道沿線等を訪れた。短時間の見学ではあるが、個別外出の行先の候補や新たな短期入所先等として今後につながるきっかけ作りとなった。また『選択活動』は、各個人ごと自らやりたいことや興味のあることを考え、介助者に要望を伝え、清掃活動やパソコン作業等様々なことに個人のペースに合わせて取り組んだ。

### ③ 緊急時・災害時対応の設備整備

- まだ不十分な点もあるが、設備の見直し・備品の整備を段階的に行った。2019年度の宿泊訓練旅行では、施設宿泊(震災・天災を想定した宿泊避難)を検討中であることから更なる充実を図っていく。